

## ウ. 近地強震波形による震源過程解析（暫定）

2025年1月13日21時19分（日本時間）に日向灘で発生した地震（ $M_{JMA}6.6$ ）について、国立研究開発法人防災科学技術研究所の強震観測網（K-NET、KiK-net）の近地強震波形を用いた震源過程解析を行った。

破壊開始点は、この地震の約1秒前にほぼ同じ場所で発生した地震の震源の位置（ $31^{\circ} 50.2' N$ 、 $131^{\circ} 35.7' E$ 、深さ 34km、気象庁による）とした。

	発生時刻	震源
破壊開始点	1月13日21時19分31.6秒	$31^{\circ} 50.2' N$ 、 $131^{\circ} 35.7' E$ 、深さ 34km
$M_{JMA}6.6$ の地震	1月13日21時19分32.8秒	$31^{\circ} 49.7' N$ 、 $131^{\circ} 34.2' E$ 、深さ 36km

断層面は、気象庁 CMT 解の2枚の節面のうち、走向  $202^{\circ}$ 、傾斜  $28^{\circ}$ 、すべり角  $83^{\circ}$  の節面を仮定して解析した。最大破壊伝播速度は  $2.9\text{km/s}$  とした。理論波形の計算には、Koketsu et al. (2012)の結果から設定した地下構造モデルを用いた。主な結果は以下のとおり（この結果は暫定であり、今後更新することがある）。

- ・主なすべり域の大きさは走向方向に約 30km、傾斜方向に約 35km であった。
- ・主なすべりは破壊開始点から北東側の浅い領域に広がり、最大すべり量は 0.5m であった（周辺の構造から剛性率を  $43\text{GPa}$  として計算）。
- ・主な破壊継続時間は約 15 秒であった。
- ・モーメントマグニチュードは 6.7 であった。

結果の見方は、[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/sourceprocess/about\\_srcproc.html](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/sourceprocess/about_srcproc.html) を参照。

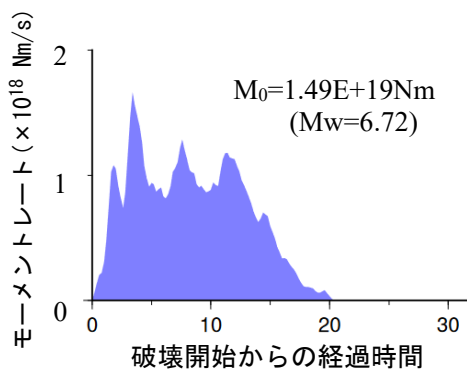


図 2-6 震源時間関数

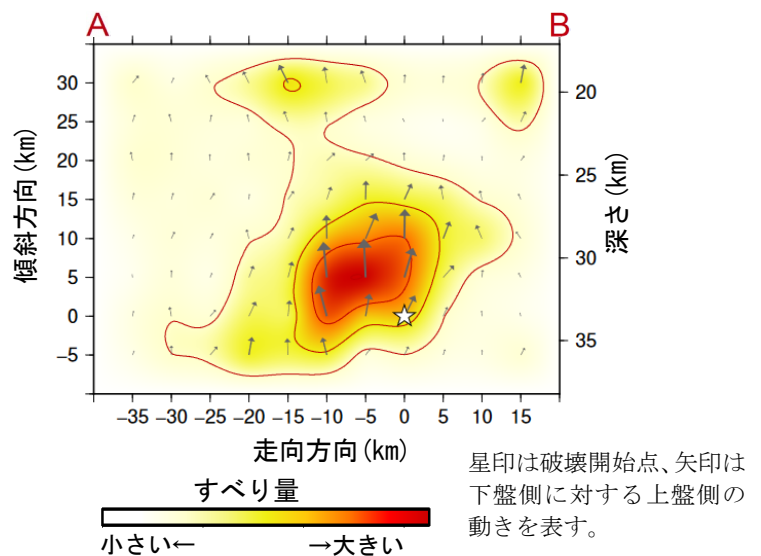


図 2-7 断層面上でのすべり量分布

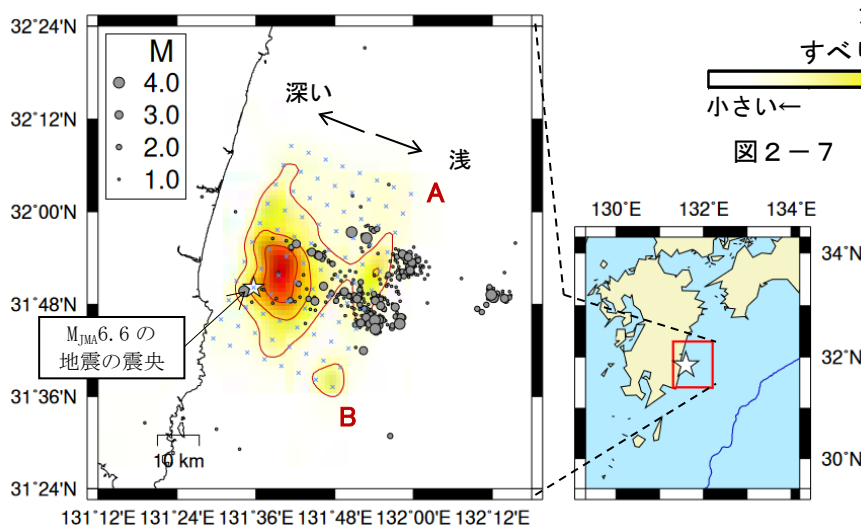


図 2-8 地図上に投影したすべり量分布

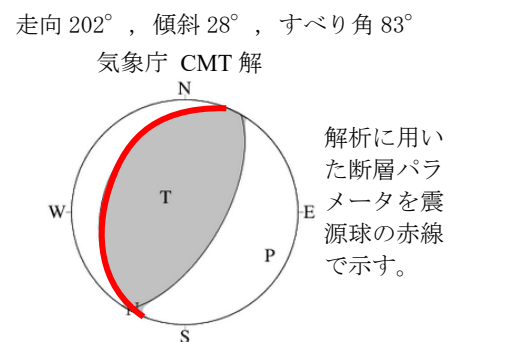


図 2-9 解析に用いた断層パラメータ

作成日：2025/01/24

# 2025年1月13日 日向灘の地震(2024年地震のすべり分布との比較)

